

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報 現況報告

9月3日夕刻時点で前兆継続の場合
第6ステージに移行、発生はより先

9月3日夕刻時点で前兆消滅すれば
9月6日±発生の可能性が高い見解

No.1778長期継続特殊前兆の続報、
現況報告です。

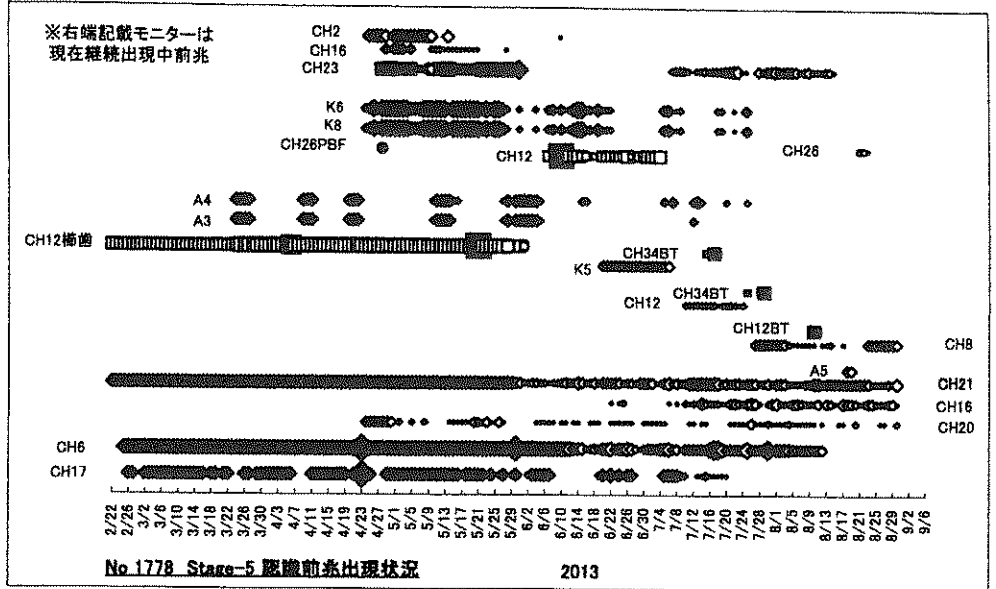
No.1778の現在の第5ステージ前兆
群から、9月6日±を示す変化が認
識されています。

前兆変化は右図のとおりで、右図
の右端に記載したモニター名の観測
装置に前兆が見える状況です。

CH8 は前兆変動では無い可能性も
考えましたが、基線変化がCH16と同期した動きが見える部分も
あるため前兆である可能性が否定できませんので、図に入れました。

本日午後現在の状況は、CH16は、ほぼ正常基線に近い状態。
ただ弱い変動が午前中に見えたため、上図には前兆出現を示す
マークを入れてあります。CH20も昼以降は正常。CH21も基線電
圧値が正常値になれば、正常と認識できます。特異状態は弱い
状態です。但しCH08は特異状態持続中。

右上図を参照戴くとお判りになると思いますが、中程右側に
右下がりの階段状に四つの極大が認識されます。最後の極大は
A5の特異8/19です。その右上にCH26の特異が、8/21-23 の三日
間のみ出現しています。三日しか出現しなかったため、中心の
8/22を極大認識することもできます。



No.1778 Stage-5 認識前兆出現状況 2013

仮に、8/19と8/22を極大認識して、9/6 ±に地震発生となる
場合は、Tmap (極大～発生) : Tpp (前兆静穏化～発生)=3.9:1
経験則を使用して、8/19極大関連前兆の静穏化時期⇔9/02±
8/22極大関連前兆の静穏化時期⇔9/02±
が計算できます。従いまして、CH8, CH21, CH16 の前兆は、仮に
9月6日±発生の場合でも、9月2日までは継続出現する可
能性が計算できる状況です。

その後、明確な極大は現在認められませんので、9月3日夕
刻時点で上記の前兆が終息しているか否かで、6日±発生とな
るのか、次の第6ステージに以降して、発生は更に先となるか
の判断ができます。それ以前に前兆が終息する可能性も否定は
できません。変化が認められ次第、続報でご報告予定です。
ギリギリまで断定困難な状況ですが、お許し下さい。

観測解析多忙のため、FAX による実験観測情報で公開実験参加者の皆様には順次観測状況
をお伝えしていますが、PHP 新書をお読み下さった読者の皆様へは、時々更新で説明不足
な部分も多々ありますが、どうぞお許し下さい。上も実験観測情報の一部を使用させて戴き
ました。仮に現在が最終段階で、9月6日±に発生となる場合には、誤差等を含めても、9
月4日時点では前兆は消える可能性が考えられます。もし4日時点でも前兆が継続していた
場合には、9月6日±発生の可能性は考えられなくなります。6日前後時期 (数日の誤差有)
で極大等が観測され、次の第6ステージへ移行し、前兆が継続する可能性が考えられること
になります。